

第61回くらしの中の竹工芸展 報告書

【開催主旨】

「竹の器と暮らす心豊かな生活」をテーマに、別府竹細工の伝統技と生活に潤いをあたえる豊かな造形美を融合した、新しい竹工芸品を募集。

美術性のみならず産業工芸、生活工芸として日常生活に密着した商品性のある作品を顕彰することにより、別府竹工芸の振興を図る。

【審査基準】

別府竹細工の品格を有し、生活に潤いをあたえる「実用性」と「造形美」を兼ね備えた新しい感覚の作品。

【応募期間】

令和6年12月16日(月)～12月25日(水)

【審査会】

令和7年1月20日(月) 竹細工伝統産業会館

【応募総数】

応募者76名、応募点数91点 (内、県外 6名、8点)

【審査委員】

中臣 一 (竹工芸家)

山下 謙一郎 (別府竹製品卸商業組合 副理事長)

小谷 公人 (大分県産業科学技術センター 産業技術アドバイザー)

友永 尚子 (元大分県立美術館 学芸員)

大橋 重臣 (竹工芸家)



くらしの中の竹工芸展賞(グランプリ) 、 特別賞

作品名 花籃「煌めく」

制作者 近藤 雅代



【講評】

側面と正面とで全く異なる編み方を組み合わせており、構造的に難しい部分もうまく克服している。

正面の透け感や縁のカーブに品の良さを感じられるグランプリにふさわしい作品。

【経歴】

1977年 栃木県生まれ

2015年 大分県立竹工芸訓練センター 修了
高江雅人氏に師事(竹工房オンセにて修業)

2018年 西部伝統工芸展 入選

2019年 くらしの中の竹工芸展 県知事賞、特別賞
岐部笙芳氏に師事

2020年 日本伝統工芸展 入選

2021年 西部伝統工芸展 入選 日本伝統工芸展 入選

2022年 西部伝統工芸展 入選 日本伝統工芸展 入選

2023年 西部伝統工芸展 用と美の部 岩田屋三越賞

2024年 次世代バンブーアート賞 トラディション優秀賞

【活動・作品づくりへの思いなど】

公募展に出品する傍ら、商品作りも並行して行っています。

常に心がけているのは「新しいアイデア」を取り入れること。美しいもの、ワクワクするものを作りたいと思っています。

大分県知事賞

作品名 蜉蝣

制作者 宇野 冴月



【講評】

しっかりと編まれていながら軽やかでバランスよく構成されている。
花籠やオブジェなど自由な使い方ができる作品。

【経歴】

1995年 愛知県生まれ
2019年 中央美術大学 卒業
2023年 大分県竹工芸訓練センター 入校
2024年 全国竹芸展 新人賞

【活動・作品づくりへの思いなど】

この時代に合った竹細工の形を探していきたいと思っています。

別府市長賞

作品名 網代ランプシェード

制作者 今富 訓孟



【講評】

編みの疎と密により光の効果がうまく出せている。

持ち手の金属も付け方や大きさを工夫し、作品と親和している。

脚を3本にすることで安定性に優れつけ方も軽やかで見えて心地の良い作品。

【経歴】

大分県中津市生まれ

2022年 大分県立竹工芸訓練センター 入校

2023年 第26回全国竹芸展 新人賞

【活動・作品づくりへの思いなど】

目を向けてもらうため新しい商品を考えたり、アイデアを形にするため工夫、試作の毎日です。
真摯に竹と向き合って、丁寧に作っています。

別府竹製品協同組合理事長賞

作品名 楕円盛り笊

制作者 井上 湧



【講評】

盛り籠としてちょうど良いサイズで使ってみたいと思わせる作品。

青物にはなかった新鮮な編み目を採用しており、リズムカルな印象を与える。

【経歴】

2002年 長野県生まれ

2016年 竹細工に出会い各地の職人を訪ねながら学ぶ

2018年 阿部功一氏に師事

2019年 長野県にて独立

【活動・作品づくりへの思いなど】

生活もしくは仕事に必要とされ、道具として無くてはならない物としての竹細工を目指し、「竹の道具」をコンセプトに製作をしている。

別府竹製品協同卸商業組合理事長賞

作品名 菱形盛りかご(麻の葉・大)

制作者 吉田 草史



【講評】

菱形という難しい形状でありながら安定感を有する技術力の高い作品。

菱形の形状と麻の葉編みによる造形が、和・洋ともに使用できる作品。

【経歴】

1991年 長野県生まれ

2022年 大分県立竹工芸訓練センター修了

同年から高見八州洋氏に師事（現在修業中）

2022年 第58回くらしの中の竹工芸展 別府市長賞

第40回くらしの工芸展 熊本市賞

2023年 第59回くらしの中の竹工芸展 大分県知事賞

第41回くらしの工芸展 宮崎審査員奨励賞

2024年 第60回くらしの中の竹工芸展 大分合同新聞社社長賞

【活動・作品づくりへの思い】

丈夫で鑑賞にも堪えるようなモノづくりをモットーに日々励んでいます。

新しいことも取り入れつつ、ぶれずにモノづくりの道を邁進していきたいと思っています。

重要無形文化財保持者賞

作品名 春の文箱

制作者 一木 律子



【講評】

蓋の四ツ目差しを所々抜くことでリズムカルな印象を与え、透け感が心地のよい作品となっている。

繊細な籐飾りには作者の技術が表れている。

【経歴】

2009年 大分県立竹工芸訓練支援センター入校

2010～2014年 別府市「竹の教室」受講

2015年 工房「福籠～fukurou～」として制作開始

2016年 「studio 竹楓舎」主宰 大谷健一氏に師事

2024年 伝統工芸士に認定

数々の作品展で受賞

大分市アートプラザ「竹工芸教室」講師

【活動・作品づくりへの思い】

白竹を使い、籠を中心とした暮らしに密着した竹細工を製作しています。

現在は studio 竹楓舎で大谷健一先生の制作に参加したり、個人で活動している「福籠」で作品を制作したり、大分市アートプラザ「竹工芸教室」の講師を努めたりと多忙な日々を送っています。

オーダーを受けての制作や、展示会などのテーマに沿った制作のほか、公募展にも応募し作品づくりを行っています。

大分みらい信用金庫理事長賞

作品名 HAMMOCK BAG

制作者 小林 由紀恵



【講評】

側面に革を使用することにより開け閉めをしやすくし、内部のポケットの付け方にも使い易いように工夫がされている。

四ツ目の網目に沿わせた紐が取っ手につながる挑戦的な作品。

【経歴】

1987年 埼玉県生まれ

2023年 大分県立竹工芸訓練センター入校

【活動・作品づくりへの思い】

使い心地の良さにこだわり、今の暮らしに溶け込む竹のバッグを作り続けていきたいと思っています。

別府市議会議長賞

作品名 やたら編み花籠「つぼみ」

制作者 小屋 了子



【講評】

幅の異なる竹ヒゴと竹の根を使用したやたら編となっている。

やたら編みのイメージと異なりどこか愛らしい印象であり、また、つぼみが開く動きや時間を感じられる作品。

【経歴】

2006年～2011年 別府市「竹の教室」受講（5年間油布昌伯先生から学ぶ）

【活動・作品づくりへの思い】

同好会の皆さんに教えていただきながら、ぼちぼち作りたいものを制作しています。

別府商工会議所会頭賞

作品名 時を紡ぐかご

制作者 荒井 直子



【講評】

作品名のとおり「白物」の諸先輩方の技術や思いを受け継ぐ、しっかりとした仕事による力作。パーティの真ん中にある風景が目に浮かぶ作品。

【経歴】

1987年 茨城県生まれ

2022年 大分県立竹工芸訓練センター入校

2024年 同センター修了

2024年4月～ 高見八州洋氏に師事

【活動・作品づくりへの思い】

現代の暮らしに馴染むクラフトのかご作りをしています。

修行中の身ではありますが、今後はより技術を高め、丁寧な作業が見える、長く愛されるかご作りをしたいと思っています。

別府市観光協会会長賞

作品名 手付け籠 温故知新

制作者 新田 耕実



【講評】

サイズ感がちょうど良く、細部までデザインに気を配った丁寧な作品。
網目が3色でインナーの布とのバランスが良く、旅先で持ち歩きたいと思わせる。

【経歴】

1951年 石川県生まれ

2018年 茶道歴45年目に有馬籠を自作したいと思い福岡市金武の里公園の竹細工教室で学ぶ

2022年以降、福岡県内美術展で入賞多数

【活動・作品づくりへの思い】

用の美を追求し喜んで使って貰える作品を目指します。

大分合同新聞社社長賞

作品名 dreaming pupa

制作者 池 将也



【講評】

上部、下部とで表皮の磨きに差を設けることで陰影による立体感を出している。
網代編みや透し網代を使い彫刻的な形状を表しているが下部は安定感がある。

【経歴】

1983年 福岡県福岡市生まれ
2012年 大分県竹工芸訓練センター入校
2013年 同センター修了
2015年 中臣一氏に師事
2018年 独立

【活動・作品づくりへの思い】

竹と楽しく関わっていきたいです。